

グローバル人材育成プログラム に参加して

橋 巧 也
Takuya TACHIBANA
機械システム工学科 3年

1. はじめに

私は、8月17日から28日までの間で、10日間“Asada Auto Service”という自動車関係の会社で実習をさせていただきました。こちらの会社は、自動車のオイル交換から日常点検、故障修理などを行われています。私は主に、日常点検、故障修理の業務を体験させていただきました。この会社を訪れる方の80%は、アメリカに在住しておられる日本人の方で、会社の方は、日本語と英語の両方を用いて会話をされていました。

2. 参加目的

私がこのプログラムに参加した理由は、自分の視野を広げ、様々な方とコミュニケーションを取ることによって自分自身のコミュニケーション能力を鍛えたいと思ったからです。私はこれまで、狭く深い人間関係を好み、多くの人と関わり新しいつながりを作ることが苦手でした。しかし社会に出た時、今のように狭い世界の中だけで生きていけるのかと考え、それは難しいのではないかと考え、もっと広い世界のことを学び、様々な方とコミュニケーションを取り、広い視野を持てるようになることを目的としました。また、私は昔から英語が苦手だったので、自分から英語しか通じない環境に身を置くことで、ネイティブの方が話す英語に慣れ、英語に対する苦手意識を少しでもなくし、積極的に英語を勉強するきっかけにしたいという目的をもってグローバル人材育成プログラムに参加させていただきました。

3. 実習内容

実習先の企業では、主に、タイヤの空気圧の調整、エアーツールを用いてのタイヤの着脱、ブレーキの点検、ブレーキパッド、ブレーキローターの交換、エキゾーストマニホールドの交換、などを実際に体験させていただき、ラジエーター交換、サーモスタット交換などの工程を見学させていただきました。

今回の実習に向かう前は、自動車関係の会社に受け入れていただくことになり、私は自動車に昔から興味を持っていたので大変うれしかったのですが、学生で素人の私が行っても当然自動車に触れることはできないだろうと思っていました。しかし、いざ実習が始まると、二日目からは実際に自動車に触れ、空気圧のチェックなどを行わせていただき、ブレーキパッド、ブレーキローターの交換も自分一人で取り外しから取り付けまでの工程を行わせていただき、非常に貴重な経験をさせていただきました。

実習中は、基本的には日本語が話せない方に指導していただき英語で様々なお話もさせていただきました。また日本語を話すことができる方も、日本語をほぼ使わずに英語で会話をして下さったので、かなり英語の勉強になりました。自動車の部品などは、日本でも名称が英語のものが多く、簡単な英単語を選んで話して下さったので内容が非常に理解しやすく、英語での話の内容が掴めるという自信が少しつきました。

私はこの実習中、一つ大きなミスを起こし、受け入れ企業様に変な迷惑をかけてしまいました。ラジエーター交換の際、走行中にボンネットが空かないように固定する部品を取り付けるための左右二本づつ計四本のボルトを間違え、別のボルトを用いて部品を取り付けてしまい、ボンネットが開かなくなるといったトラブルでした。この僕が起こしたトラブルにより、自動車の納期が二日遅れることとなり、たくさんの方に大変な迷惑をお掛けいたしました。この僕が間違えたボルトは取り外しも僕が行ったも

ので、本来は僕がしっかりとどこにどのボルトが用いられていたかということ覚えていないといけなかったのに、それをしっかりと覚えられていなかったことが原因でした。後になって考えると、このころの僕は、ようやく職場に慣れ始めて、少し気が抜け、ご厚意でお客様の自動車に触らせていただいているという意識が少し薄れていたように思います。実際に普段会社で働いている方と同じ様に働かせていただいたにも関わらず、自分はまだ学生気分が抜けきらず、自分の行動一つ一つに責任感を持っていなかったと思います。今回は納車前に気づくことが出来ましたが、これがもし駆動系や動力部に関わる部分で、納車前にミスに気付くことが出来なかったら最悪の場合、僕のミスから事故が発生してしまっていた可能性もあったのに、そこまで考慮して行動することが出来ていなかったです。この経験から、一つ一つの行動に対する確認の大切さ、自分の行動に責任を持つことの重要性を学びました。

また、冒頭でも述べた通り、受け入れ先の企業様は、大半のお客様が日本人であるというお話を聞かせて頂き、日本人のお客様と日本人以外のお客様の違いについて伺ってみた所、日本人のお客様は、なにか不満な点があるとクレームなどを言わず、そのまま二度と会社を訪れてくれなくなる。しかし、日本人以外のお客様はクレームを言うが、しっかりと問題点について話し合い、対処して理解をいただけるとまた来店してくれる方が多い、そのため、日本人のお客様に対しては、非常に作業に慎重になるというお話をいただきました。このような

ころにも、人種の違いからくる考え方の違いが見て取れ、様々な国籍の方を相手に仕事をする際には、それぞれの文化、考え方の違いを理解することが非常に重要であることを学びました。

今回の実習は、将来自動車関係の仕事に就きたいと考えている私にはすごく貴重で、刺激的な体験となりました。実際に自動車に触れ、様々なトラブルに直面し学んだ対処法は、将来必ず私の役に立つ時が来ると信じています。また、この実習で実際に自動車に触れることで今まで興味を持っていなかったブレーキの仕組みなどにも新たに興味を持つことが出来ました。私を受け入れて下さった Asada Auto Service の皆様、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

4. まとめ

私は今回のプログラムで、アメリカの文化に初めて触れ、日本人以外の方の物事の考え方や生活スタイルを知ることで、自分の視野を広げるという目標は達成できたと思っています。しかし英語力については自分の勉強不足によってホストファミリーの方とうまくコミュニケーションが取れないことが多々ありました。残りの大学生活は一年半しか残っていませんが、今回学んだことをしっかりと活かして、自分の将来を見据えた目標を立てて、なんとなく残りの時間を過ごすのではなく目的意識、問題意識を持って積極的に行動を起こし、何かを成し遂げるような、何かの役に立てるような人材になれるように勉強に励んでいきたいと思っています。